

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3148566号
(U3148566)

(45) 発行日 平成21年2月19日 (2009. 2. 19)

(24) 登録日 平成21年1月28日 (2009. 1. 28)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 5/52 (2006.01)

F I

B 6 5 D 5/52 J

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 21 頁)

(21) 出願番号	実願2008-8564 (U2008-8564)	(73) 実用新案権者	000129493
(22) 出願日	平成20年12月5日 (2008. 12. 5)		株式会社クラウン・パッケージ
実用新案法第11条において準用する特許法第30条第3項適用申請有り		(74) 代理人	100093931
			弁理士 長屋 直樹
		(72) 考案者	石井 良幸
			愛知県小牧市小針三丁目67番地 株式会社クラウン・パッケージ内

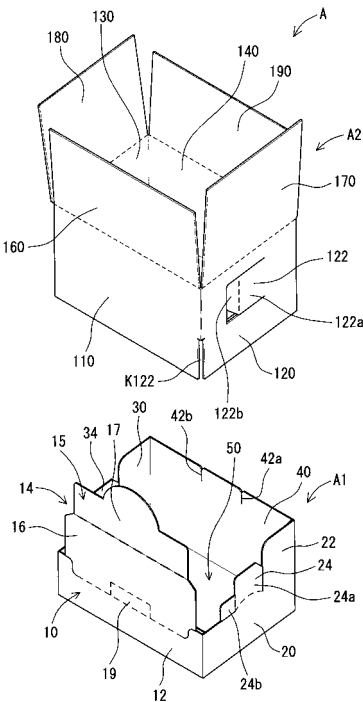
(54) 【考案の名称】 包装箱

(57) 【要約】

【課題】内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着された外箱部と、を有する包装箱において、収納される商品（特に、文庫本）を縦方向と横方向のいずれにも陳列できる包装箱を提供する。

【解決手段】内箱部A1の正面部10には、下側部16と上側部17とからなる表示部15が設けられ、文庫本を横向きに陳列する場合には、底面部50を水平方向とし背面部40を立設状態とし表示部15を背面部40に装着して使用し、一方、文庫本を縦向きに陳列する場合には、底面部50を立設状態とし背面部40を水平状態として表示部15を背面部40に装着し上側部17を下側部16に対して折り曲げて使用する。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

包装箱であって、

略方形の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部で、内側正面部と、相對する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、相對する一対の内側側面部において、内側側面部の一部が分離部として内側側面部における分離部以外の部分である内側側面部本体部と第 1 切目線を介して分離可能に形成され、1 枚のブランクにより形成された内箱部と、

内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部に分離部が接着され、外側側面部における分離部が接着された領域を含み第 2 切目線を介して形成された片部が第 2 切目線を破断することにより該外側側面部の他の部分に対して回動可能に形成され、1 枚のブランクにより形成された外箱部と、

を有し、

外側側面部における分離部が接着された該片部を該第 2 切目線を破断して外側側面部の他の部分に対して回動させることにより、該第 1 切目線が破断して分離部が該片部に接着した状態のまま内箱部から分離し、

該内側正面部が、底面部と内側側面部から連設された内側正面本体部と、内側正面本体部の上端から連設された表示部とを有し、

該表示部が、内側正面本体部の底面部とは反対側の端部から切目線を介して連設された下側部と、下側部の内側正面本体部とは反対側の端部から横方向の折れ線を介して上側部とを有し、

該内箱部における内側背面部の底面部とは反対側の端部には、切込みを有する一対の差込み部が設けられ、内箱部に収納された商品を陳列する場合には、内側正面本体部との境界の切目線を破断することにより表示部を内側正面本体部から分離して、該表示部における下側部の上側部とは反対側の端部を該一対の差込み部に差し込むことにより表示部を内箱部の背面部に装着可能であり、

内箱部の底面部を底面側とし背面部を背面側とした陳列状態である第 1 陳列状態と、内箱部の内側背面部を底面側とし底面部を背面側とした陳列状態である第 2 陳列状態の 2 つの陳列状態を有し、該第 2 陳列状態の場合には、表示部を内側背面部の一対の差込み部に差し込むとともに、上側部を下側部に対して折曲して上側部を起立させることを特徴とする包装箱。

【請求項 2】

内箱部の収納空間における内側正面部と内側背面部間の長さは文庫本の縦方向の長さと略同一に形成されていて、商品としての文庫本をその背表紙側を内箱部の底面部とは反対側として内箱部に収納することができ、文庫本を横方向にし背表紙を上側にして陳列する場合には、該第 1 陳列状態とし、文庫本を縦方向にし背表紙を正面側にして陳列する場合には、該第 2 陳列状態とすることを特徴とする請求項 1 に記載の包装箱。

【請求項 3】

内箱部における内側正面本体部の上端の中央部分からは、切目線を介して、該一対の差込み部の切込み間の長さと同様の横方向の長さを有する方形の片部が連設され、下側部は、該片部の内側正面本体部との境界となる辺部を除く辺部と、内側正面本体部の上端における該片部が連設された部分の両側の部分とから切目線を介して連設され、下側部の内側正面本体部側には方形の切欠部が形成され、表示部を内側背面部に装着する際には、

表示部との境界の切目線を破断することにより該片部を表示部から分離し、内側背面部の一对の差込み部間の位置に下側部の切欠部の部分を差し込むことにより、下側部と内側背面部とを互いに係止させることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の包装箱。

【請求項 4】

表示部を内側背面部に装着した際に、内側正面本体部の底面部とは反対側の端部から表示部における上側部と下側部との境界位置までの底面部と直角な方向の長さが、内側背面部における底面部と直角な方向の長さ以上であることを特徴とする請求項 1 又は 2 又は 3 に記載の包装箱。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本考案は、包装箱に関するものであり、複数の商品を集合して包装するとともに、包装箱の一部を分離させて商品を店頭等に陳列する包装箱に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、複数の商品を集合して包装するとともに、店頭等に陳列する包装箱として、出願人は、特許文献 1 の包装箱について出願をしている。すなわち、特許文献 1 は、包装箱であって、底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす複数の内側側面部からなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、少なくとも 2 つの内側側面部において、内側側面部の上端の領域の一部が分離部として他の部分とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して各内側側面部の外側の面に沿って設けられた外側側面部を有する外側スリーブ状部と、複数の外側側面部における少なくとも 1 つから連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切込みが、該略コ字状の切込みにより形成された片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されている外箱部と、を有し、該略コ字状の切込みにより形成される片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とするものである。

20

【0003】

30

また、出願人は、特許文献 2、特許文献 3 に記載の先行技術文献を知得している。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 3 9 9 4 8 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 3 - 1 2 8 0 5 1 号公報

【特許文献 3】特開 2 0 0 3 - 1 2 8 0 5 2 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、商品を陳列するに当たって、陳列場所の環境によっては、商品を縦向きに陳列するのが適している場合と横向きに陳列するのが適している場合とがあり、いずれにも適用できるものが望まれていた。特に、商品の上下方向の長さが奥行方向の長さよりも長い場合（例えば、文庫本の場合）には、陳列スペースが上下方向には広いが奥行方向には狭い場合には、商品を縦方向に陳列するのが適しており、陳列スペースが上下方向には狭いが奥行方向には広い場合には、商品を横方向に陳列するのが適している。

40

【0005】

そこで、本考案は、底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、収納される商品を縦方向と横方向のいずれにも陳列することができる包

50

装箱を提供することができるものを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第1には、包装箱であって、略方形の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部と、内側正面部と、相対する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、相対する一対の内側側面部において、内側側面部の一部が分離部として内側側面部における分離部以外の部分である内側側面部本体部と第1切目線を介して分離可能に形成され、1枚のブランクにより形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部に分離部が接着され、外側側面部における分離部が接着された領域を含み第2切目線を介して形成された片部が第2切目線を破断することにより該外側側面部の他の部分に対して回動可能に形成され、1枚のブランクにより形成された外箱部と、を有し、外側側面部における分離部が接着された該片部を該第2切目線を破断して外側側面部の他の部分に対して回動させることにより、該第1切目線が破断して分離部が該片部に接着した状態のまま内箱部から分離し、該内側正面部が、底面部と内側側面部から連設された内側正面本体部と、内側正面本体部の上端から連設された表示部とを有し、該表示部が、内側正面本体部の底面部とは反対側の端部から切目線を介して連設された下側部と、下側部の内側正面本体部とは反対側の端部から横方向の折れ線を介して上側部とを有し、該内箱部における内側背面部の底面部とは反対側の端部には、切込みを有する一対の差込み部が設けられ、内箱部に収納された商品を陳列する場合には、内側正面本体部との境界の切目線を破断することにより表示部を内側正面本体部から分離して、該表示部における下側部の上側部とは反対側の端部を該一対の差込み部に差し込むことにより表示部を内箱部の背面部に装着可能であり、内箱部の底面部を底面側とし背面部を背面側とした陳列状態である第1陳列状態と、内箱部の内側背面部を底面側とし底面部を背面側とした陳列状態である第2陳列状態の2つの陳列状態を有し、該第2陳列状態の場合には、表示部を内側背面部の一対の差込み部に差し込むとともに、上側部を下側部に対して折曲して上側部を起立させることを特徴とする。

【0007】

この第1の構成の包装箱においては、蓋部を開けた状態として、包装箱の上方から複数の被収納物（商品）を内箱部内に収納する。その後、蓋部を閉状態にして、接着テープにより蓋部を封止する。つまり、外箱部の外側正面部から上面を経て外側背面部側にまで接着テープを貼り付けることにより蓋部を封止する。被収納物を包装箱に包装したら、被収納物を収納した包装箱を被収納物を陳列する場所に搬送する。その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部を内箱部から分離する。すなわち、外側側面部における分離部が接着された片部を第2切目線を破断して該外側側面部の他の部分に対して回動させることにより、第1切目線が破断して分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離させ、外箱部を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部が分離した状態の内箱部が残るので、被収納物を内箱部に収納した状態で被収納物を陳列する。その後、表示部を分離して内側背面部に装着する。表示部に商品の広告を表示しておくことにより、表示部をPOP広告として利用することができる。

【0008】

また、第1陳列状態と第2陳列状態の2つの陳列状態を有するので、商品を縦方向と横方向のいずれにも陳列することができ、陳列場所の環境に応じて、縦方向と横方向のいずれの方向にも陳列することができる。特に、第2陳列状態の場合には、表示部を折曲して

上側部を起立させることにより上側部に表示された表示内容を正面側から目視可能とできる。

【 0 0 0 9 】

また、第 2 には、上記第 1 の構成において、内箱部の収納空間における内側正面部と内側背面部間の長さは文庫本の縦方向の長さと同様に形成されていて、商品としての文庫本をその背表紙側を内箱部の底面部とは反対側として内箱部に収納することができ、文庫本を横方向にし背表紙を上側にして陳列する場合には、該第 1 陳列状態とし、文庫本を縦方向にし背表紙を正面側にして陳列する場合には、該第 2 陳列状態とすることを特徴とする。これにより、文庫本を陳列環境に応じて縦方向にも横方向にも陳列することが可能となる。

10

【 0 0 1 0 】

また、第 3 には、上記第 1 又は第 2 の構成において、内箱部における内側正面本体部の上端の中央部分からは、切目線を介して、該一对の差込み部の切込み間の長さと同様の横方向の長さを有する方形の片部が連設され、下側部は、該片部の内側正面本体部との境界となる辺部を除く辺部と、内側正面本体部の上端における該片部が連設された部分の両側の部分とから切目線を介して連設され、下側部の内側正面本体部側には方形の切欠部が形成され、表示部を内側背面部に装着する際には、表示部との境界の切目線を破断することにより該片部を表示部から分離し、内側背面部の一对の差込み部間の位置に下側部の切欠部の部分を差し込むことにより、下側部と内側背面部とを互いに係止させることを特徴とする。

20

【 0 0 1 1 】

また、第 4 には、上記第 1 から第 3 までのいずれかの構成において、表示部を内側背面部に装着した際に、内側正面本体部の底面部とは反対側の端部から表示部における上側部と下側部との境界位置までの底面部と直角な方向の長さが、内側背面部における底面部と直角な方向の長さ以上であることを特徴とする。よって、収納された商品を取り出す際に、表示部における起立した上側部が邪魔になることがない。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 2 】

本考案に基づく包装箱によれば、商品の広告等が表示された表示部を分離して内側背面部に装着することにより、表示部を P O P 広告として利用することができる。

30

【 0 0 1 3 】

また、第 1 陳列状態と第 2 陳列状態の 2 つの陳列状態を有するので、商品を縦方向と横方向のいずれにも陳列することができ、陳列場所の環境に応じて、縦方向と横方向のいずれの方向にも陳列することができる。特に、第 2 陳列状態の場合には、表示部を折曲して上側部を起立させることにより上側部に表示された表示内容を正面側から目視可能とできる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 4 】

本考案においては、底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、商品を縦方向と横方向のいずれにも陳列することができる包装箱を提供するという目的を以下のようにして実現した。

40

【 0 0 1 5 】

本考案に基づく包装箱 A は、図 1 ~ 図 8 等に示すように構成され、図 1 ~ 図 3、図 1 3 等に示すように、内箱部 A 1 と、外箱部 A 2 とを有していて、それぞれが 1 枚のシート状のブランク（具体的には、段ボール、厚紙等）により形成されている。

【 0 0 1 6 】

50

内箱部 A 1 は、全体に上部が開口した容器状を呈し、図 3、図 5 等に示すように、スリーブ状部（内側スリーブ状部）5 と、底面部 5 0 とを有している。スリーブ状部 5 は、組立て状態では、底面部 5 0 の周囲から立設して形成され、正面部（内側正面部）1 0 と、側面部（内側側面部）2 0 と、側面部（内側側面部）3 0 と、背面部（内側背面部）4 0 と、糊代部 4 2 とを有していて、その展開状態は、図 5 に示すように形成されている。

【0017】

ここで、正面部 1 0 は、正面本体部 1 2 と、正面本体部 1 2 の上端から連設された切取り片部 1 4 とを有し、切取り片部 1 4 は、表示部 1 5 と、片部 1 9 とを有している。

【0018】

ここで、正面部 1 0 の構成についてさらに詳しく説明すると、正面部 1 0 は、組立て前の状態（つまり、表示部 1 5 を表示状態とする前の状態）では、図 3、図 5、図 9 等に示すように全体に平板状を呈し、正面本体部 1 2 と、切取り片部 1 4 とを有している。

【0019】

ここで、正面本体部 1 2 は、横長長方形形状の上側に凹部を形成して全体に凹状を呈している。つまり、正面本体部 1 2 の両側は上方に突出した形状を呈している。

【0020】

また、切取り片部 1 4 は、正面本体部 1 2 の上端から切目線（ミシン目）1 3 を介して連設され、表示部 1 5 と、片部 1 9 を有している。つまり、切取り片部 1 4 は、正面本体部 1 2 の両側に突出した部分における端部領域を余して上方に突出して形成され、表示部 1 5 は、下側部 1 6 と、下側部 1 6 の上端から折れ線を介して連設された上側部 1 7 とを有している。

【0021】

下側部 1 6 は、正面本体部 1 2 の上端から上方に連設され、略長方形形状の両側に台形形状を接続するとともにその略中央の下端領域に略方形形状の切欠部が形成された形状を呈している。この切欠部の左右方向の長さは、背面部 4 0 に設けられた一対の差込み部 4 2 a、4 2 b における直線状の切込み線間の長さと同様となっている。片部 1 9 は、下側部 1 6 の切欠部の位置に設けられ、正面本体部 1 2 と下側部 1 6 により切目線（ミシン目）を介して囲まれて形成されている。片部 1 9 の正面本体部 1 2 側を除く辺部に沿って切目線（ミシン目）1 8 が形成されている。つまり、下側部 1 6 は、片部 1 9 の正面本体部 1 2 との境界となる辺部を除く辺部（つまり、3 つの辺部）と、正面本体部 1 2 の上端における片部 1 9 が連設された部分の両側の部分とから切目線を介して連設されている。

【0022】

また、上側部 1 7 は、下側部 1 6 の上端（水平方向の上端）から折れ線を介して連設され、長方形形状の上端に円弧状に突出させた形状を呈している。つまり、上側部 1 7 は、長方形形状の本体部と円弧状の外形を呈する突出部とを設けた形状を呈している。なお、下側部 1 6 と上側部 1 7 との境界をなす折れ線に沿って所定間隔に切込みが形成されている。

【0023】

なお、正面部 1 0 の高さ方向の長さは、外箱部 A 2 の正面部 1 1 0 の高さ方向の長さよりも長く形成され（図 2 参照）、正面本体部 1 2 の下端から下側部 1 6 の上端までの高さ方向の長さが外箱部 A 2 の正面部 1 1 0 の高さ方向の長さと略一致している。

【0024】

また、表示部 1 5 の上側部 1 7 には、収納される文庫本の広告等を表示しておくことにより、表示部 1 5 を P O P 広告として使用することができる。

【0025】

また、側面部 2 0 は、正面部 1 0 の正面視における右側の端部（つまり、正面本体部 1 2 の右側の端部）から折れ線を介して連設され、方形形状における上側の一部を切り欠いた形状を呈し、その上端の縁部は、凹凸形状に形成され、正面側の端部においては、正面部 1 0 における正面視右端の縁部と同じ高さに形成され、背面側の端部においては、背面部 4 0 の上端の縁部の高さと同じに形成されている。この側面部 2 0 は、本体部 2 2 と、分離部 2 4 とを有し、側面部 2 0 の上端の領域の一部にミシン目 K 2 と切込み K 4 と切込み

K 5 とからなる境界線で区画することにより、本体部（内側側面部本体部）2 2 と、分離部 2 4 とが形成されている。すなわち、ミシン目 K 2 は、横方向（略水平方向）に略円弧状に形成され、切込み K 4 は、ミシン目 K 2 の背面側の端部から垂直方向（つまり、水平方向（側面部 2 0 の下辺の方向）に直角の方向）に直線状に形成され、切込み K 5 は、ミシン目 K 2 の正面側の端部から水平方向に形成されている。つまり、分離部 2 4 は、側面部 2 0 の上端の領域の一部、すなわち、正面部側の端部から背面部側の端部にまでの上端の縁部に接する領域に形成され、本体部 2 2 とミシン目 K 2 を介して分離可能に形成されている。

【 0 0 2 6 】

分離部 2 4 は、分離部本体部 2 4 a と突出部 2 4 b とを有し、分離部本体部 2 4 a は、正面側と上面側と背面側が直線状に形成され、下面側が円弧状に形成されるとともに、背面側の上端に略直角三角形の切欠部が形成されていて、全体に略方形状の下端に円弧状の切欠部が形成された形状となっている。分離部 2 4 の上辺は水平方向に形成され、正面側と背面側の辺部は垂直方向に形成されている。つまり、分離部本体部 2 4 a の下辺はミシン目 K 2 により形成され、分離部本体部 2 4 a の背面側の辺部は切込み K 4 により形成されている。突出部 2 4 b は、分離部本体部 2 4 a の正面側の下端位置から折れ線 2 4 - 1（垂直方向の折れ線）を介して正面側に突出して形成され、略方形状を呈している。つまり、分離部本体部 2 4 a と突出部 2 4 b 間には、垂直方向に折れ線が形成されている。突出部 2 4 b の下辺は、切込み K 5 により形成されている。この突出部 2 4 b は、後述する外箱部 A 2 の側面部 1 2 0 に設けられた開口部 1 2 5 の全部又は一部を内側から被覆することができるように開口部 1 2 5 の位置に設けられている。つまり、突出部 2 4 b は、開口部 1 2 5 よりも大きく形成されている。なお、図 6 に示すように、分離部 2 4 が片部 1 2 2 に接着され内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とを一体にした状態では、突出部 2 4 b の先端は、外箱部 A 2 の第 2 切目線 1 2 4 b よりも正面側とするのが好ましくこれにより、開口部 1 2 5 のなるべく広い面積を被覆することができる。

【 0 0 2 7 】

分離部 2 4 の形状は、外箱部 A 2 の側面の片部 1 2 2 を外側に回動させることにより、分離部 2 4 を本体部 2 2 から分離し、その後、外箱部 A 2 を上方に引き上げる際に支障とならないように形成されている。つまり、分離された分離部 2 4 が本体部 2 2 に対して上方に移動する際に支障とならないように、分離部 2 4 は、側面部 2 0 の上端の領域の一部、すなわち、側面部 2 0 の正面側の端部から背面側の端部までの上端の縁部に接する領域の一部に設けられ、ミシン目 K 2 や切込み K 4 は水平方向（側面部 2 0 の下辺の方向）に対して 90 度以下に形成されている。例えば、図 6 に示すように、ミシン目 K 2 の水平方向に対する角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ は 90 度以下に形成され（特に、 $\alpha 2$ はマイナスの角度である）、また、切込み K 4 の水平方向に対する角度 $\alpha 3$ も 90 度以下に形成されている。仮に、切込み K 4 の角度が 90 度よりも大きくなってしまうと、分離部 2 4 を本体部 2 2 に対して上方に移動させる際に、本体部 2 2 が支障となってしまうが、本実施例の場合にはそのようなおそれがない。

【 0 0 2 8 】

本体部 2 2 は、側面部 2 0 における分離部 2 4 以外の部分であり、本体部 2 2 の形状としては、上端の縁部が、ミシン目 K 2 と切込み K 4 の境界を介して、略水平方向に形成された部分 F 1 と、円弧状に立ち上がる部分 F 2 とから構成されていて、全体に略 L 字状を呈し、その屈曲部の内側に分離部 2 4 が形成されているといえる。この分離部 2 4 の形成位置は、外箱部 A 2 の片部 1 2 2 の裏側の領域であり、分離部 2 4 における分離部本体部 2 4 a は片部 1 2 2 の裏側に接着され、片部 1 2 2 を外側に回動させることにより、分離部 2 4 も片部 1 2 2 の裏側に接着したままミシン目 K 2 が破断されて、分離部 2 4 が本体部 2 2 から分離するように形成されている。分離部本体部 2 4 a は、片部本体部 1 2 2 a（後述）よりも小さく形成されていて、分離部本体部 2 4 a の外形が片部本体部 1 2 2 a の外形よりもはみだすことがない。なお、分離部本体部 2 4 a の下端位置が片部本体部 1 2 2 a の下端位置と略一致させることにより、突出部 2 4 b が開口部 1 2 5 を内側から被

覆することができる。なお、分離部 2 4 と本体部 2 2 との境界をなすミシン目 K 2 と切込み K 4 と切込み K 5 は、上記切目線となる。

【 0 0 2 9 】

また、側面部 3 0 は、正面部 1 0 の正面視における左側の端部（つまり、正面本体部 1 2 の左側の端部）から折れ線を介して連設され、方形状における上側の一部を切り欠いた形状を呈し、本体部 3 2 と、分離部 3 4 とを有し、側面部 3 0 の上端の領域の一部にミシン目 K 6 と切込み K 8 と切込み K 9 とからなる境界線で区画することにより、本体部 3 2 と、分離部 3 4 とが形成されている。この側面部 3 0 の構成は、側面部 2 0 と前後方向に垂直な仮想的な平面である中心面を介して対称に形成されていて、本体部 3 2 は本体部 2 2 と対称に形成され、分離部 3 4 は分離部 2 4 と対称に形成されていることから詳しい説明を省略する。

10

【 0 0 3 0 】

なお、分離部 3 4 は、分離部本体部 3 4 a と突出部 3 4 b とを有し、分離部本体部 3 4 a は、正面側と上面側と背面側が直線状に形成されるとともに、下面側が円弧状に形成されていて、全体に略方形状の下端に円弧状の切欠部が形成された形状となっている。つまり、分離部本体部 3 4 a の下辺はミシン目 K 6 により形成され、分離部本体部 3 4 a の背面側の辺部は切込み K 8 により形成されている。突出部 3 4 b は、分離部本体部 3 4 a の正面側の下端位置から折れ線 3 4 - 1 を介して正面側に突出して形成され、略方形状を呈している。突出部 3 4 b の下辺は、切込み K 9 により形成されている。

【 0 0 3 1 】

20

また、分離部 3 4 の形成位置は、外箱部 A 2 の片部 1 3 2 の裏側の領域であり、分離部 3 4 における分離部本体部 3 4 a は片部 1 3 2 の裏側に接着され、片部 1 3 2 を外側に回動させることにより、分離部 3 4 も片部 1 3 2 の裏側に接着したままミシン目 K 6 が破断されて、分離部 3 4 が本体部 3 2 から分離するように形成されている。なお、分離部 3 4 と本体部 3 2 との境界をなすミシン目 K 6 と切込み K 8 と切込み K 9 は、上記切目線となる。なお、分離部 2 4、3 4 において、折れ線 2 4 - 1、3 4 - 1 は省略してもよい。

【 0 0 3 2 】

また、背面部 4 0 は、側面部 3 0 の左側面視における左端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形）を呈している。この背面部 4 0 の横幅は、正面部の横幅と同一に形成され、背面部 4 0 の縦幅は、側面部 2 0、3 0 の縦幅（最大縦幅）と同一に形成されている。なお、背面部 4 0 の上端には、一对の差込み部 4 2 a、4 2 b が間隔を介して形成されている。一对の差込み部 4 2 a、4 2 b における各差込み部は、背面部 4 0 の上端から形成された略三角形の切欠部と該切欠部の下端から縦方向に形成された直線状の切込み線とから構成され、2 つの切込み線間の間隔は、正面部 1 0 の切取り片部 1 4 における下側部 1 6 の下端における切欠部の左右方向の長さと同様となっている。

30

【 0 0 3 3 】

また、糊代部 4 2 は、背面部 4 0 の背面視における左端から折れ線を介して連設され、縦方向に細長の帯状台形状を呈している。この糊代部 4 2 は、その外側の面が側面部 2 0 の内側の面に接着されている。

【 0 0 3 4 】

40

また、底面部 5 0 は、第 1 片部 6 0 と、第 2 片部 7 0 と、第 3 片部 8 0 と、第 4 片部 9 0 とを有し、包装箱 A の組立て状態においては、図 4 に示すように、略方形状を呈している。

【 0 0 3 5 】

ここで、第 1 片部 6 0 は、正面部 1 0 の下端から折れ線を介して連設され、略長方形に形成され、第 1 片部 6 0 の上面の一部が内箱部 A 1 の内底面の一部を形成している。また、第 1 片部 6 0 の角部（正面部 1 0 と側面部 2 0 の境界位置の角部）からは第 1 片部 6 0 の正面部 1 0 との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやしやすいように切込みが形成されている）折れ線 6 0 - 1（この折れ線 6 0 - 1 は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、内箱部 A 1 を折り畳む際に、容易に折

50

り畳むことができるようになっている。第 1 片部 6 0 は、折れ線 6 0 - 1 を介して本体部 6 2 と先端部 6 4 とに区画される。本体部 6 2 の先端の先端部 6 4 側には、他方の本体部 9 2 と互いに係止するように切欠部 6 2 a が形成されている。先端部 6 4 の上面は、第 2 片部 7 0 の下面に接着されている。

【 0 0 3 6 】

また、第 2 片部 7 0 は、側面部 2 0 の下端から折れ線を介して連設され、先端側にいくほど幅狭となる略台形形状に形成され、その上面の一部が内箱部 A 1 の内底面の一部を形成している。

【 0 0 3 7 】

また、第 3 片部 8 0 は、側面部 3 0 の下端から折れ線を介して連設され、先端側にいくほど幅狭となる略台形形状に形成され、その上面の一部が内箱部 A 1 の内底面の一部を形成している。この第 3 片部 8 0 は、底面部 5 0 の組立て状態においては、第 2 片部 7 0 と点対称に形成されている。

【 0 0 3 8 】

また、第 4 片部 9 0 は、背面部 4 0 の下端から折れ線を介して連設され、底面部 5 0 の組立て状態においては、第 1 片部 6 0 と点対称に形成されている。すなわち、第 4 片部 9 0 は、背面部 4 0 の下端から折れ線を介して連設され、略長形状に形成され、第 4 片部 9 0 の上面の一部が内箱部 A 1 の内底面の一部を形成している。また、第 4 片部 9 0 の角部（背面部 4 0 と側面部 3 0 の境界位置の角部）からは第 4 片部 9 0 の背面部 4 0 との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線 9 0 - 1（この折れ線 9 0 - 1 は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、内箱部 A 1 を折り畳む際に、容易に折り畳むことができるようになっている。第 4 片部 9 0 は、折れ線 9 0 - 1 を介して本体部 9 2 と先端部 9 4 とに区画される。本体部 9 2 の先端の先端部 9 4 側には、他方の本体部 6 2 と互いに係止するように切欠部 9 2 a が形成されている。先端部 9 4 の上面は、第 3 片部 8 0 の下面に接着されている。

【 0 0 3 9 】

内箱部 A 1 を箱状に組み立てた状態（ただし、切取り片部 1 4 を組み立てる前の状態）では、正面部 1 0 と背面部 4 0 とが互いに平行になり、側面部 2 0 と側面部 3 0 とが互いに平行になり、底面部 5 0 を構成する各部材は、正面部 1 0、側面部 2 0、3 0、背面部 4 0 に対して略直角（直角でもよい）となる。また、スリーブ状部 5 を構成する各部材（正面部 1 0、側面部 2 0、3 0、背面部 4 0）における隣接する部材は互いに直角となっている。また、内箱部 A 1 は、平板状に折り畳むことができ、正面部 1 0 と側面部 2 0 との角度を小さくし、背面部 4 0 と側面部 3 0 との角度を小さくさせることにより、図 9 に示すように、内箱部 A 1 が全体に平板状に折り畳むことができる。また、内箱部 A 1 を折り畳んだ状態では、底面部 5 0 を構成する各部は、スリーブ状部 5 内に配置され、スリーブ状部 5 を構成する正面部 1 0、側面部 2 0、3 0、背面部 4 0 に対して略平行な状態となる。

【 0 0 4 0 】

次に、外箱部 A 2 は、内箱部 A 1 を覆う箱体であり、図 1 ~ 図 3、図 7 等 to 示すように、スリーブ状部（外側スリーブ状部）1 0 5 と、上面部 1 6 0、1 7 0、1 8 0、1 9 0 とを有していて、その展開状態は、図 7 に示すように形成されている。

【 0 0 4 1 】

ここで、スリーブ状部 1 0 5 は、組み立てた状態では、四角形状の筒状を呈し、正面部（外側正面部）1 1 0 と、側面部（外側側面部）1 2 0 と、側面部（外側側面部）1 3 0 と、背面部（外側背面部）1 4 0 とを有している。

【 0 0 4 2 】

ここで、正面部 1 1 0 は、方形状（長形状）の板状を呈している。この正面部 1 1 0 の横幅は、内箱部 A 1 を外箱部 A 2 内に収納することができるように、正面部 1 0 の横幅よりも若干大きく形成されている。

【 0 0 4 3 】

また、側面部 1 2 0 は、正面部 1 1 0 の正面視における右側の端部から折れ線 K 1 2 0 を介して連設され、方形状を呈し、片部 1 2 2 と、開口部 1 2 5 が形成されている。

【 0 0 4 4 】

ここで、片部 1 2 2 は、横方向（側面部 1 2 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 1 切目線 1 2 4 a と、第 1 切目線 1 2 4 a の端部（右側面視における左側の端部）から下側に向けて縦方向（側面部 1 2 0 の下辺と略直角な方向）に形成された直線状の第 2 切目線 1 2 4 b と、第 2 切目線 1 2 4 b の下端に連設された開口部 1 2 5 における傾斜した辺部 1 2 4 c と、開口部 1 2 5 の背面側の端部から連設され横方向（側面部 1 2 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 3 切目線 1 2 4 d と、第 1 切目線 1 2 4 a 及び第 3 切目線 1 2 4 d の第 2 切目線 1 2 4 b 側とは反対側の端部を結ぶ仮想上の直線により囲まれている。第 1 切目線 1 2 4 a と第 3 切目線 1 2 4 d は、一部がミシン目状につながった切込みにより構成されている。

10

【 0 0 4 5 】

また、この片部 1 2 2 には、辺部 1 2 4 c の下端位置から垂直方向に伸びた折れ線 1 2 6 が設けられており、片部 1 2 2 における折れ線 1 2 6 よりも基端側が片部本体部 1 2 2 a となり、片部 1 2 2 における折れ線 1 2 6 よりも先端側が片部先端部 1 2 2 b となる。

【 0 0 4 6 】

開口部 1 2 5 は、直角三角形を呈し、第 2 切目線 1 2 4 b の延長線となる辺部 1 2 5 a と、第 3 切目線 1 2 4 d の延長線となる辺部 1 2 5 b と、上記辺部 1 2 4 c とで囲まれて形成されている。この開口部 1 2 5 は、指を入れて片部先端部 1 2 2 b を外側に起こすことができる大きさに形成されている。

20

【 0 0 4 7 】

ここで、第 1 切目線 1 2 4 a と、第 2 切目線 1 2 4 b と、辺部 1 2 5 a と、辺部 1 2 5 b と、第 3 切目線 1 2 4 d とで、略コ字状に形成されているといえる。

【 0 0 4 8 】

以上のように、側面部 1 2 0 には、略コ字状の切目線における一对の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより片部 1 2 2 と開口部 1 2 5 が形成されているといえる。

【 0 0 4 9 】

なお、この側面部 1 2 0 の横幅は、内箱部 A 1 を外箱部 A 2 内に収納することができるように、側面部 2 0 の横幅よりも若干大きく形成されている。

30

【 0 0 5 0 】

なお、正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0 の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやしやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線 K 1 2 0 が形成され、また、側面部 1 2 0 と正面部 1 1 0 の間の位置における下側には、縦長の切欠部 K 1 2 2 が形成されている。

【 0 0 5 1 】

また、側面部 1 3 0 は、正面部 1 1 0 の正面視における左側の端部から折れ線 K 1 1 2 を介して連設され、方形状を呈していて、片部 1 3 2 と、開口部 1 3 5 が形成されている。

40

【 0 0 5 2 】

この側面部 1 3 0 の構成は、側面部 1 2 0 と前後方向に垂直な仮想的な平面である中心面を介して対称に形成されていて、片部 1 3 2 は、片部 1 2 2 と対称に形成され、開口部 1 3 5 は、開口部 1 2 5 と対称に形成されている。

【 0 0 5 3 】

すなわち、片部 1 3 2 は、横方向（側面部 1 3 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 1 切目線 1 3 4 a と、第 1 切目線 1 3 4 a の端部（左側面視における右側の端部）から下側に向けて縦方向（側面部 1 3 0 の下辺と略直角な方向）に形成された直線状の第 2 切目線 1 3 4 b と、第 2 切目線 1 3 4 b の下端に連設された開口部 1 3 5 における

50

傾斜した辺部 1 3 4 c と、開口部 1 3 5 の背面側の端部から連設され横方向（側面部 1 3 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 3 切目線 1 3 4 d と、第 1 切目線 1 3 4 a 及び第 3 切目線 1 3 4 d の第 2 切目線 1 3 4 b 側とは反対側の端部を結ぶ仮想上の直線により囲まれている。第 1 切目線 1 3 4 a と第 3 切目線 1 3 4 d は、一部がミシン目状につながった切込みにより構成されている。

【 0 0 5 4 】

また、この片部 1 3 2 には、辺部 1 3 4 c の下端位置から垂直方向に伸びた折れ線 1 3 6 が設けられており、片部 1 3 2 における折れ線 1 3 6 よりも基端側が片部本体部 1 3 2 a となり、片部 1 3 2 における折れ線 1 3 6 よりも先端側が片部先端部 1 3 2 b となる。

【 0 0 5 5 】

開口部 1 3 5 は、直角三角形を呈し、第 2 切目線 1 3 4 b の延長線となる辺部 1 3 5 a と、第 3 切目線 1 3 4 d の延長線となる辺部 1 3 5 b と、上記辺部 1 3 4 c とで囲まれて形成されている。

【 0 0 5 6 】

ここで、第 1 切目線 1 3 4 a と、第 2 切目線 1 3 4 b と、辺部 1 3 5 a と、辺部 1 3 5 b と、第 3 切目線 1 3 4 d とで、略コ字状に形成されているといえる。

【 0 0 5 7 】

以上のように、側面部 1 3 0 には、略コ字状の切目線における一对の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより片部 1 3 2 と開口部 1 3 5 が形成されているといえる。

【 0 0 5 8 】

なお、正面部 1 1 0 と側面部 1 3 0 の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線 K 1 1 2 が互いに平行に 2 本形成されている。また、側面部 1 3 0 と正面部 1 1 0 の間の位置における下側には、縦長の開口部 K 1 1 4 が形成されている。

【 0 0 5 9 】

また、背面部 1 4 0 は、側面部 1 3 0 の左側面視における左端から折れ線 K 1 1 6 を介して連設され、方形状を呈している。この背面部 1 4 0 の横幅は、内箱部 A 1 を外箱部 A 2 内に収納することができるように、背面部 4 0 の横幅よりも若干大きく形成されている。

【 0 0 6 0 】

なお、側面部 1 3 0 と背面部 1 4 0 の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線 K 1 1 6 が形成されている。

【 0 0 6 1 】

また、糊代部 1 4 2 は、側面部 1 2 0 の右側面視における右端から折れ線（所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の 2 本の互いに平行な折れ線 K 1 2 4 ）を介して連設され、縦方向に細長の帯状台形状を呈している。この糊代部 1 4 2 は、図 2 に示すように、その内側の面が背面部 1 4 0 の外側の面に接着されている。

【 0 0 6 2 】

また、正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0、1 3 0 と背面部 1 4 0 の縦幅は同一に形成されていて、内箱部 A 1 の縦幅と同一又は若干大きく形成されている。

【 0 0 6 3 】

また、上面部 1 6 0 は、正面部 1 1 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。また、上面部 1 7 0 は、側面部 1 2 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。また、上面部 1 8 0 は、側面部 1 3 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。また、上面部 1 9 0 は、背面部 1 4 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。外箱部 A 2 の展開状態において、上面部 1 7 0 と上面部 1 6 0 との間には隙間 K 1 3 8

10

20

30

40

50

が形成され、上面部 180 と上面部 160 との間には隙間 K134 が形成され、上面部 190 と上面部 180 との間には隙間 K136 が形成されている。

【0064】

これら 4 つの上面部 160 ~ 190 は、外箱部 A2 の上面を開閉するものであり、特に、上面部 170 と上面部 180 を閉状態とすることにより外箱部 A2 の上面が塞がれる。つまり、上面部 160 ~ 190 は、蓋部を構成する。なお、上面部 160 ~ 190 は、予め上方に立設した状態になっていて、外箱部 A2 の上方が開口した状態になっている。なお、蓋部としての上面部 160 ~ 190 はスリーブ状部 105 の上端の各辺から連設されているが、少なくとも 1 つの上面部から連設されていけばよい。

【0065】

なお、正面部 110 と側面部 120、130 と背面部 140 は、請求項 1 における外側側面部を構成する。

【0066】

外箱部 A2 を箱状に組み立てた状態では、正面部 110 と背面部 140 とが互いに平行になり、側面部 120 と側面部 130 とが互いに平行になる。また、スリーブ状部 105 を構成する各部材（正面部 110、側面部 120、130、背面部 140）における隣接する部材は互いに直角となっている。

【0067】

次に、内箱部 A1 と外箱部 A2 とは、分離部 24、34 の箇所で互いに接着されている。つまり、分離部本体部 24a の外側の面と片部 122 の内側の面とが接着剤その他の接着手段により接着されるとともに、分離部本体部 34a の外側の面と片部 132 の内側の面とが接着剤その他の接着手段により接着されることにより、包装箱 A が全体に一体に形成される。つまり、分離部本体部 24a の外側の面の全部又は一部の領域と片部本体部 122a の内側の面の間には接着剤層（図示せず）が設けられていて、同様に、分離部本体部 34a の外側の面の全部又は一部の領域と片部本体部 132a の内側の面の間には接着剤層（図示せず）が設けられている。これにより、外箱部 A2 のスリーブ状部 105 は、内箱部 A1 におけるスリーブ状部 5 の外側の面に沿って設けられ、例えば、正面部 10 の外側の面に沿って正面部 110 が設けられ、側面部 20 の外側の面に沿って側面部 120 が設けられ、側面部 30 の外側の面に沿って側面部 130 が設けられ、背面部 40 の外側の面に沿って背面部 140 が設けられている。該接着剤層の接着力は、外箱部 A2 の片部 122 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 24a の下側のミシン目 K2 が破れて、分離部 24 が内箱部 A1 から分離し、回動させた片部 122 に接着した状態で片部 122 に従動するように設定されていて、同様に、外箱部 A2 の片部 132 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 34a の下側のミシン目 K6 が破れて、分離部 34 が内箱部 A1 から分離し、回動させた片部 132 に接着した状態で片部 132 に従動するように設定されている。

【0068】

また、内箱部 A1 と外箱部 A2 とが接着された状態では、内箱部 A1 の下端と外箱部 A2 の下端とが同じ高さになるように形成されている。なお、内箱部 A1 と外箱部 A2 とは、分離部 24、34 の箇所以外は互いに接着されていない。以上のように、内箱部 A1 は外箱部 A2 の内側に収納した状態となっていて、内箱部 A1 の底面部 50 及び開口部 125、135 の内側部分以外は外箱部 A2 に被覆された状態となっている。つまり、外箱部 A2 の下端の高さ方向の位置は、内箱部 A1 の下端の高さ方向の位置と略同一であり、上面部 160 ~ 190 を封止した状態では内箱部においては底面部 50 及び開口部 125、135 の内側部分のみが露出している。

【0069】

なお、包装箱 A は、図 10 に示すように、文庫本を横向きにして収納できる大きさに形成されていて、包装箱 A の収納空間の前後方向の長さは、文庫本の高さ方向の長さと略一致しており、該収納空間の高さ方向の長さは、文庫本の前後方向の長さと略一致して形成されている。つまり、内箱部 A1 の側面部 20、30 の横方向の長さは、文庫本の高さ方

10

20

30

40

50

向の長さ略一致又は若干大きく形成され、また、内箱部 A 1 の背面部 4 0 の高さ方向の長さや外箱部 A 2 の正面部 1 1 0、側面部 1 2 0、1 3 0、背面部 1 4 0 の高さ方向の長さは、文庫本の前後方向の長さと略一致又は若干大きく形成されている。

【 0 0 7 0 】

なお、上記構成の包装箱 A は、内箱部 A 1 が上記のように折り畳むことができ、また、外箱部 A 2 がスリーブ状部 1 0 5 を有し、全体に略スリーブ状を呈しているので、包装箱 A の状態においても平板状に折り畳むことができ、正面部 1 1 0 を側面部 1 3 0 に対して略平行になるようにし、かつ、側面部 1 2 0 を背面部 1 4 0 に対して略平行になるようにすることにより、図 9 に示すように平板状に折り畳むことができる。

【 0 0 7 1 】

上記構成の包装箱 A の使用状態について説明する。包装箱 A を使用しない状況では、上記のように包装箱 A は平板状に折り畳むことができるので、折り畳んで保管しておく。

【 0 0 7 2 】

そして、包装箱 A を使用する際に、包装箱 A を組み立てる。すなわち、外箱部 A 2 における正面部 1 1 0 と背面部 1 4 0 とが互いに平行になり、側面部 1 2 0 と側面部 1 3 0 とが互いに平行になるようにするとともに、内箱部 A 1 における正面部 1 0 と背面部 4 0 とが互いに平行になり、側面部 2 0 と側面部 3 0 とが互いに平行になるようにし、底面部 5 0 がスリーブ状部 5、1 0 5 に直角になるようにすることにより包装箱 A が立体状に組み立てられる。

【 0 0 7 3 】

そして、図 1 0 に示すように、包装箱 A の上方から複数の被収納物としての文庫本 G を内箱部 A 1 内に収納する。文庫本の収納に当たっては、文庫本を横向きにして収納し、特に、背表紙を上側にして収納する。上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 は、予め上方に立設した状態になっていて、外箱部 A 2 の上方が開いた状態になっているので、文庫本 G はそのまま包装箱 A の上方から収納すればよい。

【 0 0 7 4 】

なお、文庫本の陳列状態において、文庫本を横向きにし背表紙を上側にして陳列する場合には、文庫本の下側を包装箱 A の正面側として収納し、一方、文庫本を縦向きにし背表紙を正面側にして陳列する場合には、文庫本の下側を包装箱 A の背面側として収納する。

【 0 0 7 5 】

その後、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を閉状態にして、接着テープ T を外箱部 A 2 の側面部 1 2 0 から上面を経て側面部 1 3 0 側にまで接着させることにより、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を封止する（図 1 1 参照）。なお、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を封止するに際しては、内箱部 A 1 の正面部 1 0 における上側部 1 7 が外箱部 A 2 の正面部 1 1 0 よりも突出しているので、上側部 1 7 を下側部 1 6 に対して上側部 1 7 と下側部 1 6 間の折れ線を介して折曲して、上側部 1 7 を水平方向にした上で上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を閉状態とする。

【 0 0 7 6 】

以上のようにして、文庫本 G を包装箱 A に包装したら、文庫本 G を収納した包装箱 A を文庫本 G を陳列する場所に搬送する。

【 0 0 7 7 】

その後、文庫本を陳列する場合には、外箱部 A 2 を内箱部 A 1 から分離する。すなわち、開口部 1 2 5 の位置に指を入れた後に片部 1 2 2 における片部先端部 1 2 2 b に指を係止させ、片部先端部 1 2 2 b を外側に引き出す。その際、折れ線 1 2 6 が設けられているので、容易に片部先端部 1 2 2 b を外側に引き出すことができる。その後は、片部先端部 1 2 2 b をさらに外側に引き出すことにより、図 1 2 に示すように、片部 1 2 2 を回動させることができる。つまり、横方向に形成された第 1 切目線 1 2 4 a と第 3 切目線 1 2 4 d の第 2 切目線 1 2 4 b が設けられている側とは反対側の端部間を結ぶ直線状の折れ線（側面部 1 2 0 の下辺に対して垂直方向の直線）が回動軸となって片部 1 2 2 が水平方向に回動する。

【 0 0 7 8 】

また、開口部 1 3 5 の位置に指を入れた後に片部 1 3 2 における片部先端部 1 3 2 b に指を係止させ、片部先端部 1 3 2 b を外側に引き出す。その際、折れ線 1 3 6 が設けられているので、容易に片部先端部 1 3 2 b を外側に引き出すことができる。その後は、片部先端部 1 3 2 b をさらに外側に引き出すことにより、片部 1 3 2 を回動させることができる。

【 0 0 7 9 】

なお、片部 1 2 2、1 3 2 が回動する際の回動軸となる折れ線の箇所には、罫線を形成しておかなくても片部 1 2 2、1 3 2 を回動させることにより自然と折れ線が形成されるが、予め該折れ線の箇所に罫線を形成しておいてもよい。

【 0 0 8 0 】

すると、外箱部 A 2 の片部 1 2 2 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 2 4 a の下側のミシン目 K 2 が破れて、分離部 2 4 が内箱部 A 1 から分離し、回動させた片部 1 2 2 に接着した状態で片部 1 2 2 に従動する。同様に、外箱部 A 2 の片部 1 3 2 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 3 4 a の下側のミシン目 K 6 が破れて、分離部 3 4 が内箱部 A 1 から分離し、回動させた片部 1 3 2 に接着した状態で片部 1 3 2 に従動する。なお、突出部 2 4 b、3 4 b と本体部 2 2、3 4 とは切込みを介して分離しており、分離部本体部 2 4 a、3 4 a のみが切目線を介して本体部 2 2、3 4 と連設されているので、分離部の分離を容易に行なうことができる。

【 0 0 8 1 】

そして、図 1 3 に示すように、外箱部 A 2 を上方に引き上げることにより、文庫本を収納した状態で、かつ、分離部 2 4、3 4 が分離した状態の内箱部 A 1 が残るので、文庫本を内箱部 A 1 に収納した状態で文庫本を陳列する。なお、外箱部 A 2 には、切欠部 K 1 2 2 が設けられていて、正面部 1 1 0 や側面部 1 2 0 の下端が外側と内側間を移動する余裕があるので、外箱部 A 2 を容易に引き上げることができる。なお、外箱部 A 2 を上方に引き上げた状態では、文庫本は内箱部 A 1 内に横向きで背表紙を上側にして収納されている。

【 0 0 8 2 】

次に、切取り片部 1 4 と正面本体部 1 2 との間の切目線を破断して切取り片部 1 4 を正面部 1 0 から分離させ、その後、切取り片部 1 4 と片部 1 9 との間の切目線を破断して、表示部 1 5 を片部 1 9 から分離する。

【 0 0 8 3 】

表示部 1 5 を分離したら、文庫本の陳列方向に応じて表示部 1 5 を背面部 4 0 に装着する。

【 0 0 8 4 】

すなわち、文庫本を横向きにし背表紙を上側にして陳列する場合には、図 1 4、図 1 5 に示すように、底面部 5 0 を水平方向（つまり、底面側）とし背面部 4 0 を立設状態（つまり、背面側）として表示部 1 5 を背面部 4 0 に装着する。すなわち、背面部 4 0 の一对の差込み部 4 2 a、4 2 b 間の位置に下側部 1 6 の切欠部の部分を差し込むことにより、表示部 1 5 の下側部 1 6 の切欠部形成側の部分と背面部 4 0 における差込み部 4 2 a、4 2 b 形成側の部分とを係止させて、表示部 1 5 を背面部 4 0 に装着する。装着に当たっては、表示部 1 5 の上側部 1 7 において広告が表示された面を正面側に向けて装着する。なお、図 1 5 は、図 1 4 において収納された文庫本を除いた状態の図である。図 1 5 の状態においては、差込み部 4 2 a、4 2 b の両側の片部 4 3 b、4 3 c は、下側部 1 6 の正面側にあるが、差込み部 4 2 a、4 2 b 間の片部 4 3 a は、下側部 1 6 の背面側にある。なお、片部 4 3 b、4 3 c を下側部 1 6 の背面側とし、片部 4 3 a を下側部 1 6 の正面側となるように表示部 1 5 を差し込んでもよい。

【 0 0 8 5 】

また、文庫本を縦向きにし背表紙を正面側にして陳列する場合には、図 1 6、図 1 7 に示すように、底面部 5 0 を立設状態（つまり、背面側）とし背面部 4 0 を水平状態（つまり、底面側）として表示部 1 5 を背面部 4 0 に装着する。すなわち、背面部 4 0 の一对の

10

20

30

40

50

差込み部 4 2 a、4 2 b 間の位置に下側部 1 6 の切欠部の部分を差し込むことにより、表示部 1 5 の下側部 1 6 の切欠部形成側の部分と背面部 4 0 における差込み部 4 2 a、4 2 b 形成側の部分とを係止させて、表示部 1 5 を背面部 4 0 に装着する。装着に当たっては、図 1 6、図 1 7 に示すように、表示部 1 5 の上側部 1 7 を下側部 1 6 に対して折り曲げた状態とし、そのように表示部 1 5 を折り曲げた状態とした際に、表示部 1 5 の上側部 1 7 において広告が表示された面を正面側となるように装着する。なお、図 1 7 は、図 1 6 において収納された文庫本を除いた状態の図である。図 1 7 の状態においては、差込み部 4 2 a、4 2 b の両側の片部 4 3 b、4 3 c は、下側部 1 6 の上面側にあるが、差込み部 4 2 a、4 2 b 間の片部 4 3 a は、下側部 1 6 の下面側にある。なお、片部 4 3 b、4 3 c を下側部 1 6 の下面側とし、片部 4 3 a を下側部 1 6 の上面側となるように表示部 1 5 を差し込んでよい。

10

【0086】

なお、図 1 6、図 1 7 の状態において、正面本体部 1 2 の正面側の端部と上側部 1 7 (厳密には、上側部 1 7 の背面側の面) との間の前後方向 (Y 1 - Y 2 方向) の長さ U は、文庫本の横方向の長さ W (図 1 6、図 1 7 における背面部 4 0 の前後方向の長さ) と略同一である) よりも長く形成され、文庫本を取り出す際に、起立した上側部 1 7 が邪魔になることがない。つまり、表示部 1 5 を背面部 4 0 に装着した状態では、正面本体部 1 2 の底面部 5 0 とは反対側の端部から表示部 1 5 における下側部 1 6 と上側部 1 7 との境界位置までの底面部 5 0 と直角な方向 (Y 1 - Y 2 方向) の長さ U が、背面部 4 0 における底面部 5 0 と直角な方向 (Y 1 - Y 2 方向) の長さ以上に形成されているので、収納された文庫本を取り出すために正面側 (Y 1 側) に引き出す際に上側部 1 7 が邪魔になることがない。

20

【0087】

本実施例の包装箱 A によれば、図 1 や図 2 に示すように、上方が開口した包装箱 A に対して上方から被収納物としての文庫本を収納して、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を閉じて 1 つの接着テープ T により封止するのみであるので、容易に被収納物 (文庫本) の梱包作業を行うことができる。

【0088】

また、包装箱 A によれば、文庫本を横向き、縦向きのいずれでも陳列することができ、また、縦向き、横向きのいずれの場合でも表示部 1 5 を P O P 広告として使用することができる。

30

【0089】

また、本実施例の包装箱 A によれば、片部 1 2 2、1 3 2 を外側に回動させて、分離部 2 4、3 4 を内箱部 A 1 から分離して外箱部 A 2 を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、本実施例においては、外箱部 A 2 の側面部 1 2 0、1 3 0 に開口部 1 2 5、1 3 5 が形成されているので、回動する片部 1 2 2、1 3 2 を外側に引き出しやすく、容易に片部 1 2 2、1 3 2 を回動させることができ、特に、内箱部に収納されている商品が外箱部の側面部の内側に沿ってびったり密接して収納されている場合でも容易に片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる。

40

【0090】

また、外箱部 A 2 の側面部 1 2 0、1 3 0 に開口部 1 2 5、1 3 5 が形成されているが、開口部 1 2 5、1 3 5 の全部又は一部を内側から被覆する突出部 2 4 b、3 4 b が設けられているので、開口部 1 2 5、1 3 5 からゴミ等が入るおそれがない。

【0091】

また、特に、本実施例の包装箱 A においては、片部 1 2 2、1 3 2 が外箱部 A 2 の側面部 1 2 0、1 3 0 の下端位置よりも上側に設けられ、特に、片部 1 2 2、1 3 2 は、スリーブ状部 1 0 5 の下端の縁部に対して垂直方向の回動軸を中心に水平方向に回動するので、商品が収納された収納物を持ち上げて搬送する際に、誤って片部 1 2 2、1 3 2 を回動させてしまうことがない。つまり、仮に、分離部と接着した片部で、回動させるための片

50

部をスリーブ状部 1 0 5 の下端から上方に伸びる平行な切込みにより形成した場合には、包装箱 A を持ち上げる際に該片部の位置を手にとって持ち上げると、誤って 該片部を回動させてしまい、内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とを分離させてしまうおそれがあるが、本実施例の包装箱 A の外箱部 A 2 における片部 1 2 2、1 3 2 は上記のように構成されているので、そのようなおそれがない。

【 0 0 9 2 】

なお、上記の説明においては、被収納物（商品）として文庫本を例にとって説明したが、他の被収納物であってもよい。

【 0 0 9 3 】

なお、上記の説明において、外箱部 A 2 においては、スリーブ状部 1 0 5 を構成する正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0 の境界位置に切欠部 K 1 2 2 が設けられ、正面部 1 1 0 と側面部 1 3 0 の境界位置に開口部 K 1 1 4 が設けられているとして説明したが、切欠部 K 1 2 2 を開口部 K 1 1 4 のような開口部としてもよく、また、開口部 K 1 1 4 を切欠部 K 1 2 2 のような切欠部としてもよい。

【 0 0 9 4 】

また、切欠部 K 1 2 2 のような切欠部又は開口部 K 1 1 4 のような開口部を側面部 1 2 0 と背面部 1 4 0 の境界位置や側面部 1 3 0 と背面部 1 4 0 の境界位置に設けるようにしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 9 5 】

【図 1】本考案の実施例に基づく包装箱の前方斜視図である。

【図 2】本考案の実施例に基づく包装箱の後方斜視図である。

【図 3】本考案の実施例に基づく包装箱の分解斜視図である。

【図 4】本考案の実施例に基づく包装箱の底面図である。

【図 5】内箱部の展開図である。

【図 6】図 5 における要部説明図である。

【図 7】外箱部の展開図である。

【図 8】包装箱を折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図 9】包装箱を折り畳んだ際の内箱部の折り畳み状態を示す斜視図である。

【図 1 0】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 1】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 2】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 3】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 4】包装箱の使用状態を示す斜視図であり、特に、文庫本を横向きにして陳列する場合を示す斜視図である。

【図 1 5】図 1 4 において被収納物としての文庫本を除いた状態を示す斜視図である。

【図 1 6】包装箱の使用状態を示す斜視図であり、特に、文庫本を縦向きにして陳列する場合を示す斜視図である。

【図 1 7】図 1 6 において被収納物としての文庫本を除いた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

【 0 0 9 6 】

A 包装箱

A 1 内箱部

A 2 外箱部

5、1 0 5 スリーブ状部

1 0、1 1 0 正面部

1 2 正面本体部

1 4 切取り片部

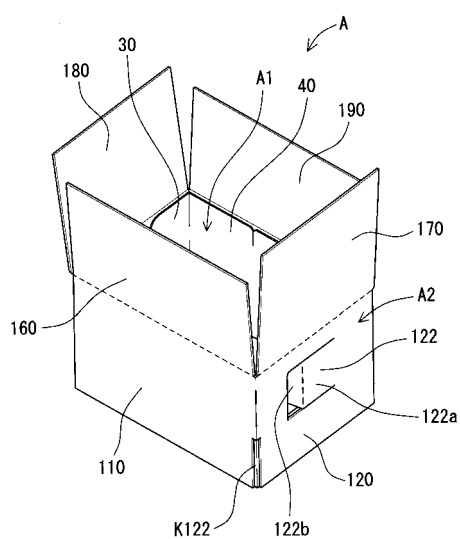
1 5 表示部

1 6 下側部

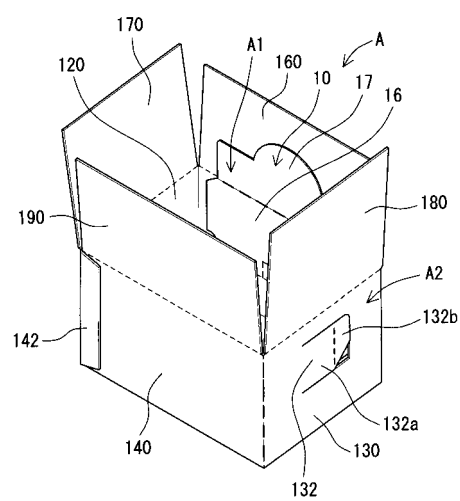
1 7 上側部
1 9 片部
2 0、3 0、1 2 0、1 3 0 側面部
2 2、3 2 本体部
2 4、3 4 分離部
2 4 a、3 4 a 分離部 本体部
2 4 b、3 4 b 突出部
4 0、1 4 0 背面部
4 2、1 4 2 糊代部
5 0 底面部
1 2 2、1 3 2 片部
1 6 0、1 7 0、1 8 0、1 9 0 上面部

10

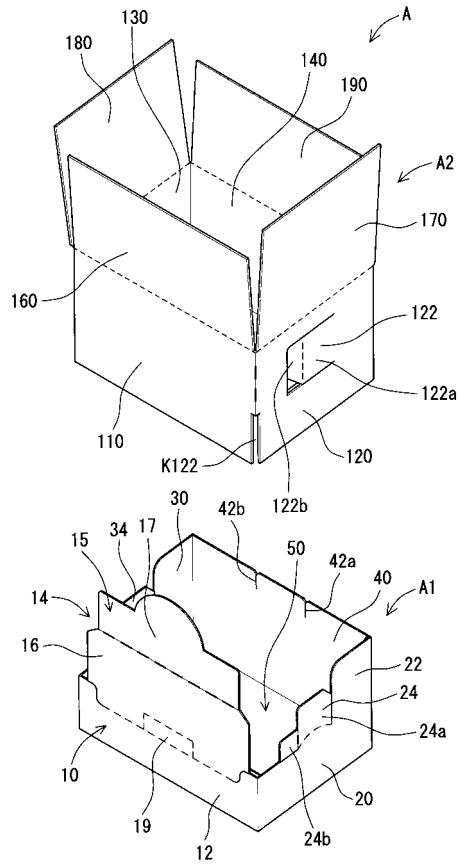
【 図 1 】



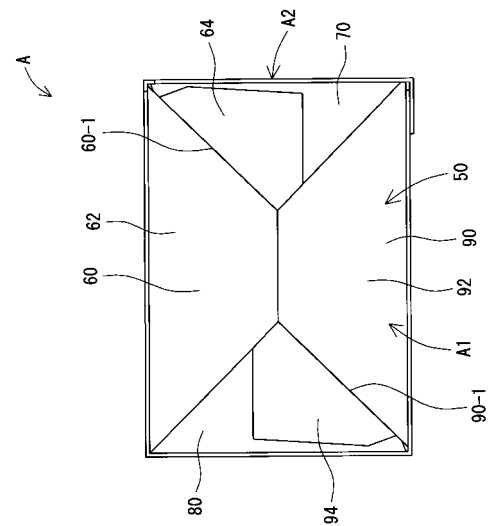
【 圖 2 】



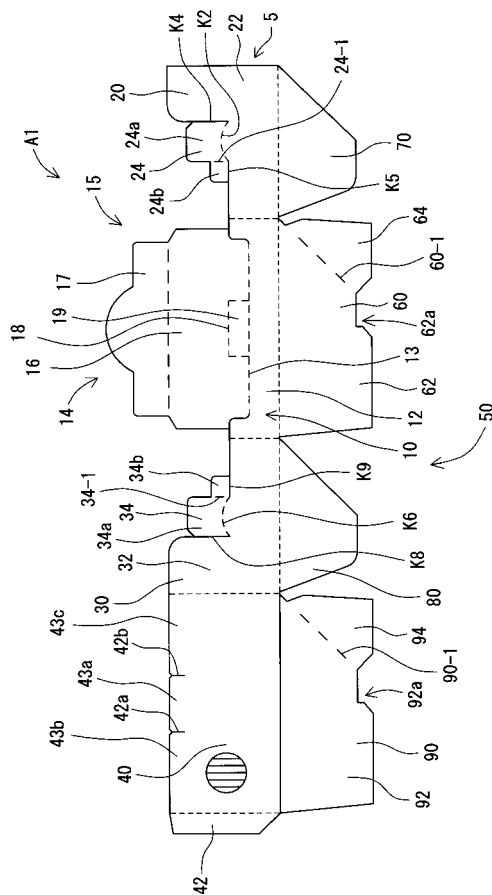
【図 3】



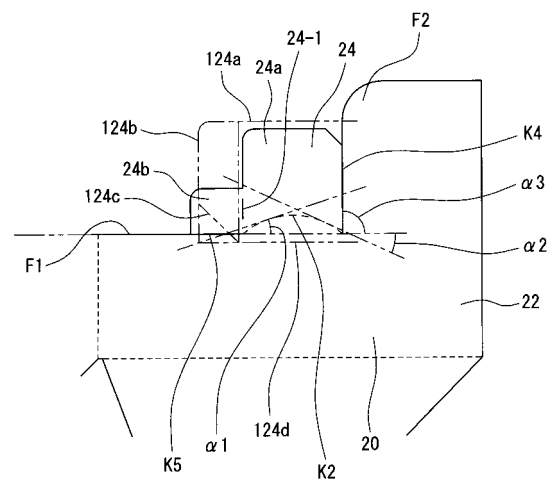
【図 4】



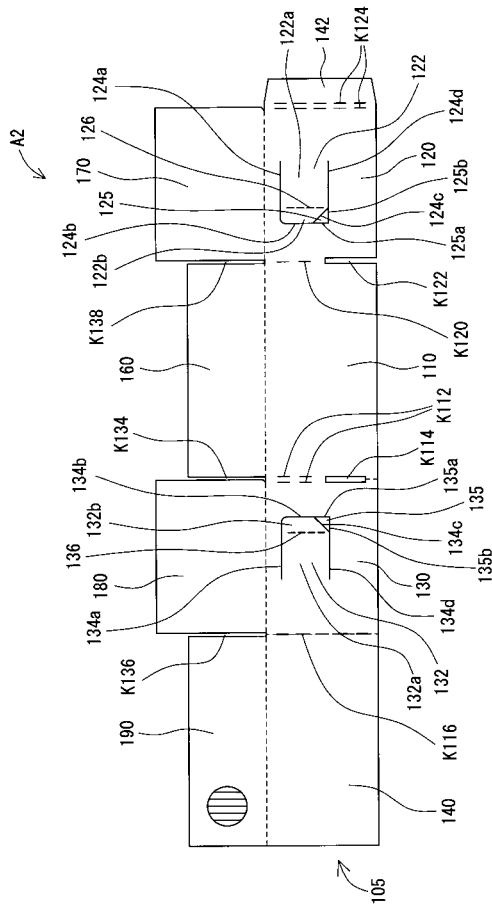
【図 5】



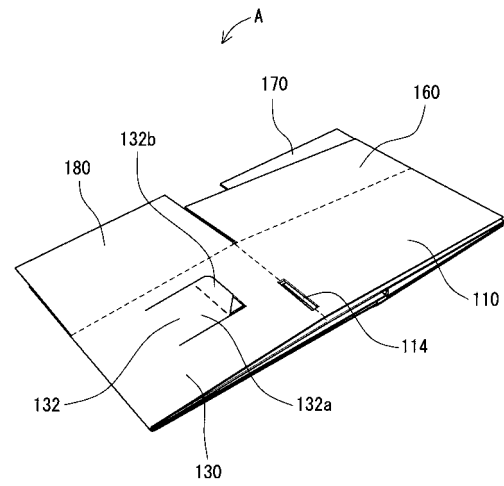
【図 6】



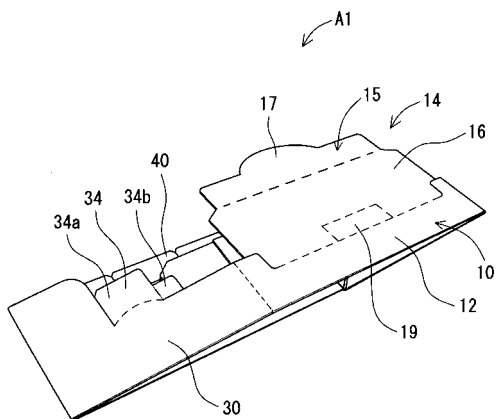
【圖 7】



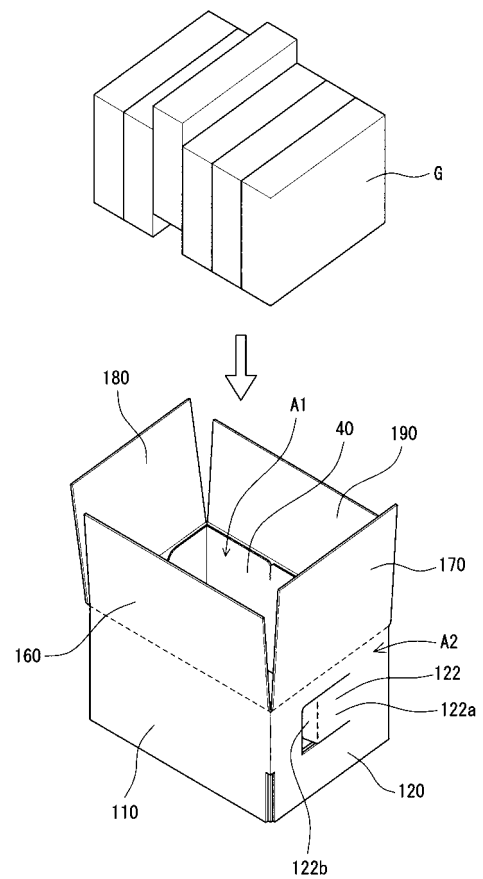
【 図 8 】



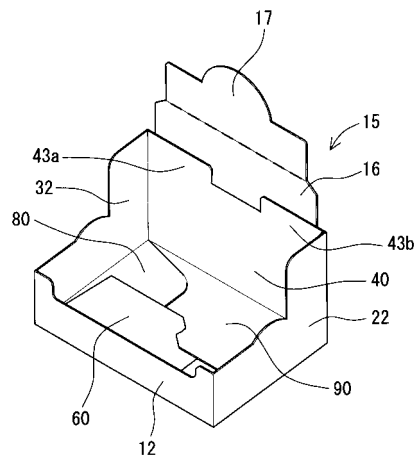
【 図 9 】



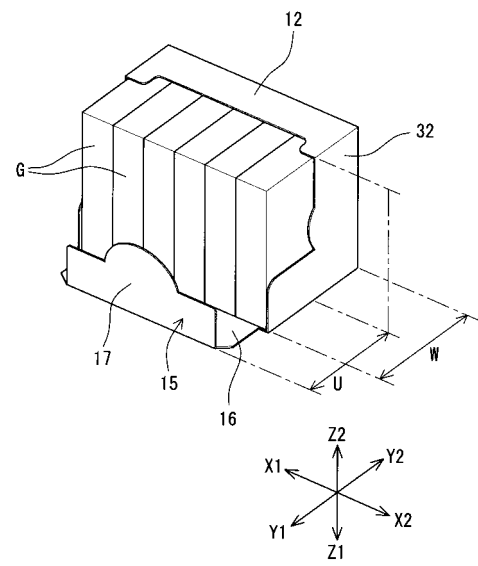
【 図 1 0 】



【図 15】



【図 16】



【図 17】

